


第 1 回渡良瀬遊水地エリア検討部会  
議事要旨

【概 要】

日 時	平成 28 年 1 月 25 日 (月) 13:00~15:00
場 所	加須市大利根文化・学習センター「アスタホール」多目的ホール
議 事	<p>(1) 開催の背景について</p> <p>(2) 検討部会の規約・名簿について</p> <p>(3) 議長の選出について</p> <p>(4) 関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想」の紹介</p> <p>(5) 渡良瀬遊水地エリアの現状と課題について</p> <p>(6) 今後の展開・進め方について</p>
配布資料	<p>1. 議事次第</p> <p>2. 出席者名簿</p> <p>3. 出席者席配置図</p> <p>4. 資料 1：開催背景</p> <p>5. 資料 2：規約・名簿</p> <p>6. 資料 3：検討部会規約の改正について</p> <p>7. 資料 4：関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想（一部抜粋版）</p> <p>8. 資料 5：渡良瀬遊水地エリアの現状と課題について</p> <p>9. 資料 6：今後の展開・進め方について</p> <p>10. 参考資料 1：渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会 設立趣旨・規約・名簿・傍聴要領</p> <p>11. 参考資料 2：関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想（平成 27 年 3 月策定）</p> <p>12. 参考資料 3：コウノトリ飛来時の対応パンフレット（兵庫県コウノトリの郷公園パンフレット）</p> <p>13. 参考資料 4：野田市コウノトリ生息域内保全実施計画【試験放鳥編】</p> <p>14. 参考資料 5：コウノトリの関東地域における野生復帰にむけて（野田市パンフレット）</p>
出席者	配布資料「出席者名簿」のとおり
会議風景	

## 【内 容】（敬称略）

### ■開会

- ・司会進行役

### ■あいさつ

（事務所長）本日はご多用のところ、お集まり下さいましてありがとうございます。また、利根川上流河川事務所の河川行政についても、日頃からご支援・ご協力頂き、感謝申し上げます。

本日の検討部会は、もともとは関東地方におけるエコロジカル・ネットワーク形成プロジェクトとして利根川上流河川事務所の上位機関である関東地方整備局で平成 21 年から進められてきた取組の一環。トキ・コウノトリを指標に、自然環境の保全・創造を果たしていきながら広い地域でお互いが連携し、最終的には地域の振興にもつなげていくため、大きな戦略の下に進めてきた。我々事務所としても、渡良瀬遊水地が 1 つの有力な核となる地域だと思っているので、これまでに勉強会を開催してきた。また、関東地方整備局のエコネットの会議での検討の熱が高まっているほか、渡良瀬遊水地第 2 調節池では湿地の再生事業も本格化してきている状況。そのような状況を踏まえ、いよいよ渡良瀬遊水地エリアにおいても地域で検討部会を設け、具体的な活動を始めたいと思っている。そして、昨年 11 月 16 日に「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会」を開催した。有識者の先生方を始め、関係する自治体の首長、関係する県、国の機関にも加わっていただいて推進協議会を立ち上げた。協議会ということで、トップの方にも入っていただいて意思決定をしながら前に進めていくことを考えた。ただし、新しい取組なので、基本的には関係者にも入っていただき、具体的な案を出し合いながら検討していくのが良いと思い、本検討部会も設置した。協議会には入っていなかった関係団体の方にもご参加を頂き、この地域にふさわしい具体的な活動計画を作っていきたいと思っているので、これを契機にぜひよろしくお願いいたします。

一昨年、コウノトリが渡良瀬遊水地の上空を舞ったほか、去年は 4 月頃に水田に降りたとも聞いている。近いうちには、高い頻度でコウノトリやトキがこの地域で見られることを期待し、冒頭のご挨拶とさせていただきます。

### ■議事 1：開催背景について

- ※「資料 1：開催背景」の説明

### ■議事 2：検討部会の規約・名簿について

- ※「資料 2：検討部会の規約・名簿について」・「資料 3：検討部会規約の改正について」の説明

### ■議事 3：議長の選出について

- ※自薦・他薦がなかったため、事務局の提案により承認

### ■議長挨拶

（議長）ただいま議長に選出されました。よろしくお願いいたします。

今回の検討部会は非常に大事な役割を担っていると思う。渡良瀬遊水地ではさまざまな

協議会や検討会が立ち上がっている。また、関東地方には「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」がある。協議会に議論を上げるためには部会でしっかり検討する必要があり、その意味で関東と地域を結ぶ重要な役割を担っていると思っている。まさに、環境保全をいかにして地域振興に結び付けていくのか、という大事な役割だと思っている。1月23日に下野新聞の論説に「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会」の記事が掲載された。そこには「環境と地域振興結ぶ要に」と記載されていた。この中でこれまでコウノトリやトキに関するいろいろな取組みがあるが、広域に目を向けると水辺環境はトキ・コウノトリだけでなく、水辺を利用する生態系の上位種にも効果を発揮している。例えばサシバはカエル等をよく食べるが、実は既に遊水地周辺で様々な取組みが始まっており、栃木市では産業団地の建設にあたって、サシバの保全のために5ha以上の水田ビオトープを造っている。それは「ふゆみずたんぼ」や「なつみずたんぼ」の取組みにつながり、最終的にはサシバの保全がトキやコウノトリ等の水鳥が生息できる水辺環境の創出につながるようになると思う。さらに宇都宮市周辺でも、ふゆみずたんぼを実施しているところがあり、毎年ハクチョウが飛来している。最近、小山市でなつみずたんぼの取組みが始まっているが、実は埼玉県でも盛んに実施されている。このように、実は既にエコロジカル・ネットワークの種子は渡良瀬遊水地を中心にたくさんある。そういった種を拾い出して1つずつ環境保全に結びつけ、さらにそれを基にして地域振興、つまり渡良瀬遊水地共通のブランド等を立ち上げることができればと思う。これまで遊水地周辺だとどうしても各市町でのローカル的な取組みが多かったが、この協議会、検討部会で渡良瀬遊水地周辺の10市町、またそれをさらに広げて、かなり大きな範囲で共通ブランド的なものを考えていったら良いのではないかと考えている。ぜひ皆様には、それぞれの立場から意見を出していただき、共通の話題点・取組みを検討いただければと思う。ただし、一番の基本は環境保全だと思っている。まずは環境保全に共通で取り組める何かを見つけていくことが、この検討部会の役割の一つではないかと思う。みんなで取り組むことで、それが最終的に共通ブランドにつながる可能性があると思っているので、ぜひ皆様方の活発な議論をお願いしたいと思う。

〈質疑応答〉

※資料1～3について意見なし

■議事4：「関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想」の紹介

※「資料4：関東地域におけるコウノトリ・トキを指標とした生態系ネットワーク形成基本構想（一部抜粋版）」の説明

■議事5：渡良瀬遊水地エリアの現状と課題について

※「資料5：渡良瀬遊水地エリアの現状と課題について」の説明

■議事4、5についての質疑

（関係団体） 取組みの趣旨は分かったが、気になるのは、コウノトリやトキの生息環境イコール渡良瀬遊水地の他の貴重な生物の生息環境となるのかということ。トキ・コウノトリに特化した環境整備を実施した時に、他の希少な種に何か影響等はないのか。

(事務局) 関東広域の地域づくりのシンボルとして「コウノトリ・トキ」を掲げてスタートしているが、渡良瀬遊水地エリアの具体的なあり方を検討するに当たっては、少し言葉を注意しながら進めてきている。先ほどの趣旨や規約、資料 5 では「トキやコウノトリなど」としている。このエリアの水辺環境を豊かにしていく上での指標・シンボルがコウノトリ・トキだけではないだろうということだと思があるので、これらの生き物を含めて、渡良瀬遊水地と渡良瀬遊水地エリア、エリアとは遊水地とそこに流入・つながる利根川中流域の沿川 10 市町の範囲を含むと考えているが、このエリアの中でシンボルにふさわしい生き物があればご提案いただいて、事務局で整理する作業をしたいと思っている。

(関係団体) 比較的トキやコウノトリに近いところと言えばサンカノゴイ。遊水地では最近数が減っている。他にもクイナ類が繁殖・越冬しているので、そのような種も目標種になると思う。また、オオセッカも増えてきてはいるものの、まだまだ個体群としては少ないので入れても良いと思う。後はやはりチュウヒ。あれだけの環境があるのにまだ繁殖に至っていないことを皆不思議に思っている。その意味でもしかすると湿地の管理が大変難しくなってくる感じもする。

(議長) 今の意見を参考に、事務局で検討を進めてほしい。

(関係団体) 関東で広域的に取り組むということは、「南関東水と緑のネットワーク形成プロジェクト」を出発点としているので仕方がないとは思いますが、実際問題として特にコウノトリはもっとダイナミックな動きをする鳥だと思う。野田で放鳥されたコウノトリや渡良瀬遊水地に飛来したコウノトリの動きを見ても、当然関東の一つの狭い範囲にとどまるわけではなく、非常に広域的な、日本全国が関係するように思う。これから野田や、いつかは渡良瀬遊水地のエリアでも放鳥されることになるかもしれないが、その際もおそらく関東圏にとどまらず、いいところがあれば他に行ってしまうと思う。何とか関東にとどまってほしいという願望が結構あるのかなと思う。きちんと考えれば、今の時点でコウノトリやトキが定着できる一番可能性のあるところと他の地域を含めたネットワークを考えた方が良いと思う。非常に大変かもしれないが、例えば小山市、豊岡市、大崎市、佐渡市では連携をとっているが、そのような取組みも一方で考えていく必要があると思う。

(事務局) 事務局としても思いは同じである。関東地域でエコロジカル・ネットワークといっても関東だけでやっているわけではなく、河川を軸とした生態系ネットワークというテーマを持ち、北海道から九州まで取組みが行われている。近畿では円山川、九頭竜川においてコウノトリを挙げているほか、九州ではツルをシンボルに挙げている。関東ではかつて江戸時代の湿地が豊かであった頃には、コウノトリやトキ、ツルやガン類が多数飛来していた。また、現在は西日本の豊岡盆地を中心にコウノトリの個体群が形成されているが、かつての日本の分布をみると関東でもメタ個体群が形成されていたことが分かっているので、そのような大きな目標を掲げる中で、今よりも生き物が豊かになる道筋になるのであれば、そういう捉え方ができると良いのではないかと考えている。

(関係団体) 概ね了解した。本日は自治体の皆さんが来ているが、やはり自治体の自主的な動き・判断も必要だと思う。研究者、保護団体が動いてもそれだけではだめで、自治体が考え、色々試行錯誤しながら進めていくということも必要だと思っている。それもネットワークだと思う。そのあたりについても、本日参加されている自治体の方々も、各自治体でどのように考えていくのかを整理して取り組んでいくことが良いと思う。

(有識者) 自分は「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」の定着地づくり専門部会の座長を務めている。特に去年は野田市でコウノトリの放鳥があったことで、いろいろな人の繋がりができたことを実感している。冒頭で青木先生からもあったように、関東では様々な取組みが行われている。その各自治体の環境への取組みをつなげていくことを考え始めている。野田市でも、ふゆみずたんぼや環境保全型農法などを実施しており、ここでコウノトリをシンボルにすることで、今まで実施してきた取組みが大きくなると考えている。ひとつひとつの各市町でやっていたことを繋げていくことにより、大きな食物網のトップに立つ鳥が来てくれるようになると考えている。それがコウノトリ「も」住めるという表現で豊岡市の中貝市長が言ったことだと思っている。つまり、コウノトリが住めるということは、他の多様な生物が住める基盤づくりをしていくことにつながると考えている。私自身、野田市で放鳥されたコウノトリが飛来した場所を訪ねたところ、餌となるカエルが多かった。冬に再度訪問した際にはタゲリがいて、やはりコウノトリが飛来する場所は他の生き物も豊かだと感じた。個々の環境配慮を流域単位で結び付けていくことがエコロジカル・ネットワークで、関東では渡良瀬遊水地エリアがその大きな拠点であると改めて感じている。定着地づくり専門部会の議論の中で江戸川、利根川の河川敷の切り下げによる湿地再生を国交省が主体となって実施している。その大河川の周辺農地の農業水路を結び付けていくことを議論しているが、それを担うのがまさに今日お集まりいただいた自治体の皆さんや農水省だと思っている。地域振興につなげるための大元の自然環境を復活させるということ为先ほど聞いてすごく大事だと思った。私自身、コウノトリも住める環境をつくっていく中で、そのみにとらわれるのではないという視点や、いろいろな生き物がいて、その生き物たちが住める基盤づくりをしているという視点を改めて確認していければいいと思っている。

(議長) 基盤づくりという話があったが、基盤をつくることによってコウノトリやその他の鳥も住めるようになっていく。そして、実際に飛んでくると小山市のように地元の人も興味を持って皆が変わってくる。そして新しい取組みが始まってくる。シンボリックな鳥がいると試みがだんだん結びついていく。長谷川先生が話されたように、コウノトリが来るところはすごくいい環境であるということ。そういった基盤を作る大事な取組みなので、ぜひ皆さん前向きに考えていただきたいと思う。

(関係団体) コウノトリに限らないと思うが、生き物は何千年から何万年という時間をかけて、その環境に適応してきた。その中で独自の習性を獲得してきたと思う。この取組みはコウノトリが長い時間をかけて築いてきた習性を理解した上で取り組んでいく必要があると思う。それを無視すると、うまくいかないと思う。

(関係団体) わたらせ未来基金は、2001年発足当時にコウノトリも生息できるような環境をつくっていききたい、ということでコウノトリをシンボルマークにしている。[資料5](#)P.7(2)「生息環境の保全・再生」で、渡良瀬遊水地の外の水田は各自治体が試行錯誤しながら先進的に実施しているところだと思う。ただ、渡良瀬遊水地内で保全・再生していく上で、渡良瀬遊水地には治水という機能があることを考慮していただけたらと思う。例えば、樹木の伐採をするときに、治水の推進を目的とする団体と調整していかないといけない。この検討部会の中で、「環境保全をしていく上で木を残しておきたいが、治水上この部分は流れの邪魔になるために切らないといけない」ということが出てくると思う。そのあたりをうまく進めるためには治水推進団体とも時おり連携を図っていかないと、また対立関係が生まれてしまう。地方創生はこれから大事だと思っているので、環境だけでなく、特に遊水地の中では治水なども考えながら進めてほしい。

(議長) [資料5](#)P.7(2)に治水の観点も入れるように検討をお願いします。

(有識者) [資料5](#)で説明されているが、大型肉食水鳥であるコウノトリ・トキが生息できる環境を保全することは、食物連鎖の頂点を守るのみならず、それらを支えている餌資源の生息できる環境を守ることに思っている。我々の研究所では農水省のプロジェクトとして、水田などの営農条件や水路環境と生物の関係を改善する研究を進めている。その指標種としてサギ類を選んでいる。渡良瀬遊水地におけるサギ類の餌資源の状況を調べることによって、コウノトリやトキが生息できる環境を知ることができると考えている。具体的な手法としては、糞に含まれているDNAから餌生物を解析し、餌生物やその季節変化などを押さえることができれば、将来コウノトリやトキの保全にも役に立つのではないかと考えている。そこで渡良瀬遊水地エリアでサギ類のコロニーの情報を知っている方がいれば、ぜひ教えていただきたい。ご協力をお願いします。

(議長) 情報提供がありましたら、お願いします。

(関係団体) 筑波大で南関東地域のサギ類のコロニーの研究をしている方がいたと思う。個体数の変遷を研究している方である。

(有識者) コウノトリの習性について話があったが、実はコウノトリは1970年代以前には、日本にたくさんいた。このコウノトリは中国とロシアの国境付近のアムール川、ウスリー川周辺の大繁殖地から越冬のため、10月から11月に日本に渡ってきて、2、3月に繁殖地に戻っていた。現在は繁殖地から日本にほとんど渡ってきていない状況。なぜ渡って来ないのかというと、こちら側の環境が変わったと皆は言っているが、本当は環境がどのように変わったかしっかりと特定されていない。野生復帰を図る場合は、環境がどう変わったのか調べる必要があると思う。コウノトリの習性は変わったと思う。今のコウノトリは黒竜江省の三江平原で繁殖し、越冬地は中国南部の揚子江、黄河の河口で、そこには毎年2000羽、多いときは3000羽以上が確認された。最近はその越冬地の近くで繁殖し、北には戻らなくなっている。特に黄河河口の自然保護区では、最近70~80羽が繁殖している。日本の山岸先生※によると、コウノトリは非常にいい加減な鳥で、良い場所を見つけると越冬地から繁殖地に戻らない鳥だと言ってい

る。我々もそういうことを視野に入れて考えなければいけないと思う。特に日本だけでなく、韓国、中国の繁殖地・越冬地環境を調べ、それを踏まえて渡良瀬遊水地エリアの整備の検討を進めていくことも重要だと思う。

※山岸 哲・山階鳥類研究所名誉所長

(関係団体) 渡良瀬遊水地は世界的にも非常に貴重でラムサール条約にも登録され、現在、渡良瀬遊水地の保全・再生、賢明な利用による地域活性化が求められている。その中で遊水地の価値を高める水辺環境は非常に重要であると思っている。そこでコウノトリやトキを評価の目標とするとのことですが、市民にもわかりやすい環境整備になるような形で検討部会を進めていただきたいと思う。渡良瀬遊水地は非常に貴重な場所で、平野会員が挙げたように他の野鳥も非常に多いことや貴重な生物が生息していることを踏まえた検討にしてほしい。また、時として本来の機能である治水や、遊水地の環境のシンボルになっているヨシ原では、毎年ヨシ刈りやヨシ焼きを行っている。そういった利用などについても考慮していただきたい。また、遊水地は首都圏のオアシスであり、年間 100 万人が利用している。広大な空間ではあるが、自然環境の保全と利用のバランスも考慮して検討をお願いしたい。特に地域にとって利用面は、地域の活性化の目玉の一つになっているので、ぜひお願いしたい。

(関係市町) 蘇先生の話で東アジアのコウノトリの繁殖場所について話を聞いて、久喜市はどういう位置づけになるのだろうかと思った。その中で資料5 P.5 に「エコロジカル・ネットワークとは」と書かれている中で、核になっているのが渡良瀬遊水地や野田市で、そこと結ぶ役目となるバッファゾーンが本市なのかと感じた。では、本市にはコウノトリはどのような時に来てくれるのか。本市は夏場にサギ類がかなりいるので、夏場はコウノトリが来てくれるのか、冬はどうなのか。また、良い環境をつくれればコウノトリが来てくれるのか、もしくはやらなくても良いのか、力を入れるべき季節はあるのか。本市の位置関係から次に何をやったらよいか、正直なところ悩んでいる。一歩進めるためにアドバイスがあればお願いしたい。

(有識者) 私自身、試験放鳥されたコウノトリがどこをどう利用したのか確認したいと思っている。春夏秋冬で餌生物の量は異なるが、一番の理想は一年を通じて定着してもらうこと。現状は夏だけで精一杯だが、次は秋・春、そして冬も定着可能というように、現状分析をした上で次の目標を設定していく必要がある。現状ではどの季節にどの場所の適性が高い、あるいは低いかを、これまでの事務局の結果などを合わせながらより綿密な解析をしていくことになると思う。11月29日の「コウノトリ保全フォーラム」の中で、日本全国のコウノトリが飛来した地域の情報から、潜在的にコウノトリが好む環境はどこなのかを推定した事例の発表があった。同じことを関東でも実施し、評価した上で、例えば久喜市がどのような状況にあるのかを示すことができればと思う。私自身が現場を見て感じたのは、基本的に圃場整備していない場所が良いということ。一年中コウノトリにいてほしいと思ったら、圃場整備していない場所の保全が非常に重要だと感じた。その意味で、まず関東では、生き物の豊かな地域を保全する方向に行けばよいと思う。コウノトリの生息地保全・再生に向けた関東の広域的な課題の中で、堤防の内側と外側の動向をふまえた流域単位の湿地整備ということで、既

にある良い環境はどこかを明らかにし、それ以外の場所では努力目標としてふゆみずたんぼやなつみずたんぼ、生物多様性を育む農法のあり方などを具体的に整備していくことが必要だと思う。これがまさに渡良瀬遊水地を核としつつ周辺の水田地域の役割はどうあるべきか考えていくことになると思う。

(関係団体) 久喜市の取組みはいろいろなものが考えられると思うが、まずは身近な団体を訪ねるのが良いと思う。久喜市は渡良瀬遊水地エリアに属するが、関東エコロジカル・ネットワークの枠組みの中では、荒川流域エリアに属する鴻巣市、北本市と隣接している。北本市には埼玉県自然学習センターがあるほか、埼玉県生態系保護協会が県内各地に支部を持っており、各支部で独自に活動を行っている。もちろん久喜市にも久喜支部がある。そのような横のつながりを持っているところに相談すると良いと思う。色々なやり方があると思うが、まずは身近な団体に聞いてみることも一つの方法ではないか。

(議長) 地元で取組んでいる団体や農家さんがいると思うので、地元の掘り起しからスタートすると良いと思う。

#### ■議事 6：今後の展開・進め方について

※「資料 6：今後の展開・進め方について」の説明

#### ■議事 6 についての質疑

(関係市町) この検討部会の内容はかなり分野が広い。このエリアには河川・農地など範囲が広範なため、次回から資料を事前に送っていただき、資料を事前にもらえれば庁内で調整した意見を出せると思う。

(議長) 次回からは資料の事前送付をお願いします。

(関係団体) このような事業は面白く・楽しくないといけないと思う。例えば、「歴史、昔話、言い伝えからのアプローチ」というのがあり、非常に良いと思う。加須市の北川辺に豊岡のコウノトリが 12 日間滞在した。また、豊岡のコウノトリの郷公園で生まれた個体が福井県や京都府で繁殖している。コウノトリの郷公園で放鳥された個体が別の地域で繁殖していることを考えると、それらの地域には、今は繁殖をやめてしまったものの、昔繁殖した頃の環境や地形などが残っているのではないかと思う。私は古河市に住んでいるが、古河市には鴻巣という地名がある。室町時代の鎌倉公方が都落ちして古河に来て、古河公方になり 5 代続いたが、その際に鴻巣御所という城郭をつくった。そこからは、コウノトリが 12 日間滞在した北川辺の餌場が全部見えたと考えられる。そのように歴史を調べていくと何か面白いものが出てくるのではないかと思う。もう一つ気になるのは、渡良瀬遊水地に 20 年程前にコウノトリ郷公園の江崎部長がお出でになり、「渡良瀬遊水地はヨシ原でコウノトリの生息には適しません」と、はっきりと言って帰られた。ただ、今回はエリア単位での取組みということで、周辺の環境を探すとコウノトリの生息・繁殖に適した場所が見つかるのではないかと思っている。



(議長) 歴史などもふまえながら、ぜひ進めていきたいと思う。

(有識者) 利根運河での会議にも出ているが、江戸川河川事務所の皆さんが非常に積極的。例えば河川敷のヨシ原を湿地にしたりしている。ただし、むやみに今あるヨシ原を湿地にしているわけではない。またゴルフ場、野球場は河川占用の許可のもとで使われているが、これからはそこも占用を見直して自然再生のエリアとして考えたいと言われた。そのような姿勢を国交省の方が持っていることを非常に心強く感じた。

#### ■まとめ

(議長) 課題、今後の進め方等について皆さまから様々なご意見を伺った。課題についてはこれからまさに取り上げていくことになると思うので、ぜひそれぞれの行政の取り組みや会員の取り組み等を事務局に情報共有していただき、全体を集計する形で、全体で取組めるものが絞り込めると思っている。また、今後の進め方については、本日意見・提案のあったような方向性で基本的には進めていただきたいと思う。ぜひ地元の行政や団体から意見を吸い上げ、さらに必要であれば、新たな会員の拡充等も検討いただければと思う。また、現在、渡良瀬遊水地内で様々な取組みが進められているが、遊水地から一歩外に出て、エリアとして遊水地を核としつつ周辺地域とどうつながりを持つかが重要であり、渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会のもとで、魅力的な地域づくりのあり方を確認しながら進めていきたいと思う。また、ここに参加している各主体はそれぞれの役割を認識し、積極的に取り組んでいただけるとありがたい。今後ともご協力をお願いしたい。

#### ■その他

(事務局) 参考資料1から5を配布してあります。ご参照下さい。

来年度以降も、「渡良瀬遊水地エリア エコロジカル・ネットワーク推進協議会」及び「渡良瀬遊水地エリア検討部会」を継続的に開催する予定であるため、引き続きご協力をお願いしたい。

以上